

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)～(8)は必ず記入してください。(9)～(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1)担当支部:	東九州支部	(2)記載者氏名:	飯田 勝之	会員番号:	10912	事務局整理記入欄	東九州 - 10
分水嶺区分	P518～P537(K058とK061の間)	(3)山行日:	2004年 11月 21日	(4)天候	晴れ		

(5)参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

飯田勝之	10912			安部可人	会友		
園田暉明	13135			石川洋佑	会友		
佐藤秀二	13141			牧野信江	会友		
中野 稔	13997			得丸芳子	会友		
計				4名			
計				4名			

(6)山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	名勝耶馬溪の「内匠の池の景」の池のほとりから分水嶺稜線にとりつき、複雑に入り組んだ低山の稜線をたどりながら、鹿倉の峠に至る。												
アプローチ:	鹿倉の峠の手前にある林道に2台の車を置き、他の2台で内匠の池まで入る。上下二つある内匠の池(人工池)の、上の堰堤から山腹にとりつき分水嶺稜線を踏査開始。												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)～(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	内匠の池	深耶馬溪	131	9	25.6	33	20	21.2	497		7:30		
分水嶺到達点	分水嶺稜線	深耶馬溪	131	9	24.9	33	20	22.7	518	7:40		B-1	
	小ピーク	深耶馬溪	131	9	26.6	33	20	28.3	532			B-3	
	旧林道	深耶馬溪	131	9	30.2	33	20	29.5	536			B-3	
	小ピーク	深耶馬溪	131	9	40.9	33	20	28.6	526	8:55	9:00	A-2	
	小ピーク	深耶馬溪	131	9	49.9	33	20	22.7	541			B-2	
	稜線	深耶馬溪	131	10	3.1	33	20	19.6	523	11:40	12:15	B-3	
	林道出合い	深耶馬溪	131	10	11.4	33	20	11.4	521			B-2	
	537mピーク	深耶馬溪	131	10	11.5	33	20	28.1	541	12:40	12:50	A-1	
分水嶺離別点	稜線	深耶馬溪	131	10	15.2	33	20	27.2	519			B-2	
歩行終了点	稜線	深耶馬溪	131	10	15.2	33	20	27.2	519		13:00	B-2	
総歩行時間(休憩時間を除く):												5時間00分	

(7)三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを 記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項
					標高点は四等三角点もなし

(8)人工施設の現況および地形図との相違点

途中には何カ所か古い林道や新しい林道が稜線上にある。

(9)水および植生に関連した特記事項

区間の分水嶺は全て低い稜線で、大半が低灌木のブッシュである。
部分的に稜線までスギ、ヒノキの植林がある。
スギの造林地はいたるところが台風などによる風倒木が行く手を遮り、猛烈な風倒木帯の山腹登りがある。

(10)その他の特記事項


(11)写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:
(1) 内匠ノ池
(2) 分水嶺稜線より無田ノ台と黒岳

山行報告書(続き)

表面(1ページ目)に書ききれなかった事項を記入してください。

7時30分に出発。上下二つのある池の上の池の堤防を伝って道の向かい側の稜線にとりつく(写真(1))。雑木林を直登して稜線上がると、そこが分水嶺上だ。先ず北に向う。道がないので最初からヤブこぎである。男性軍がカマやナタで枝を払って進む。北に向かった稜線は30分ほど大きくカーブして東に向かい、やがて稜線につけられた古い林道を進む。再び大きくカーブして今度は南向きに方向転換。このカーブの地点の北側にちょっと目を引く高とがった岩山が聳えていた。551mの標高点のあるピークで、「登頂意欲がそそられるなあ」と男性軍の声。ここから林道は広くて路面も良くなる。しばらく林道を南進しながら下ると鞍部につき、今度は東側の峰に向かって山腹を直登。登り着くとここからは、北に南にと稜線は大きく曲がりくねりながら、徐々に東の鹿倉峠へと近づいていく。

ヤブの浅い少し快適な稜線歩きとなったためにどんどん南に進んでいると、東側の稜線に渡るべき地点を通り越してしまい、Uターン。朝の稜線に登った時から右手に見えていた通称「チョコ山」603.6mが、このあたりまで絶えず右手に見え隠れしていて、この山の周りを半周したような感じである。

地図を見ながら山腹を直に下ると、背の高い笹におおわれた低い鞍部に下りついた。この地点は、山の中のヤブ深い単なる窪地にしか見えないが分水嶺である。

そこから東側の稜線への登りが大変である。縦横に折り重なったスギの風倒木の中のヤブこぎ登りである。平成7年の台風19号の時に倒れ、そのまま放置されているようである。登りついたらホッとするほどに浅いヤブとなる。平らな稜線を少し進んだところに明るいうち広場があり、時刻は11時40分、ここで昼食休憩。

再出発の後は、少し行くと稜線につけられた古い道が現れて、あとはほとんど快適な草つきの林道歩きに変わる。遠くに無田ノ台や黒岳が見えるようになり(写真(2))、やがて林道からそれで小さな尾根を二、三分で登りついたところが今日の最後のポイント地点、537mの標高点である。12時40分到着。ここで記念写真を撮り、少し下ったところに今朝駐めておいた二台の車が合った。



(1) 内匠ノ池



(2) 分水嶺稜線より無田ノ台と黒岳